

進化したWin11のフォトアプリ

JJ1SXA/池

マイクロソフトは、自社の製品、サービスに積極的にAIを取り入れている、Win11標準の「フォト」アプリも例外ではない。

「フォト」アプリの最新版では、AIによる背景の自動認識機能が加わり、背景を自動で取り除いたり、背景をぼかしたりといった編集が簡単にできるようになった。

アプリを起動して編集したい写真を表示、標準では「ピクチャ」の写真が表示される、ピクチャ以外のフォルダにある場合は、そのフォルダを追加登録するか、編集したい画像を「ピクチャ」に移動する。

写真の閲覧画面で「背景タブ」を選ぶと自動で背景が認識され、その範囲が青い斜線で表示される、背景の編集方法は「ぼかし」「置換」「削除」の3パターン、いずれもシンプルな機能だ。

ぼかしは、「ぼかし強度の数値」で背景のぼけ具合を調整できる、プレビューを見ながら強度を設定する。

「置換」は、背景を指定した色で塗りつぶす機能だ、色はカラーピッカーで選んだり、RCBの数値で指定したりする。

「削除」は、背景を透過状態にする機能、他の画像と重ねて合成したい時に便利だ。

「フォト」の背景判別機能は中々優秀だが、細かい部分ではミスもある、「背景ブラシツール」を使えば背景の範囲を修正可能、「背景ブラシツール」をオンにし、範囲を広げるなら「追加」、範囲を狭めるなら「減算」を選択。ブラシの太さは「ブラシのサイズ」、ブラシの輪郭のぼかし具合は「ブラシの柔らかさ」のスライダーをドラッグして調整、細部を修正するには、左上の「虫めがねボタン」で拡大し、マウスの右ボタンを押しながらドラッグして表示位置を調整。

編集を終えたら「保存オプション」を押し、通常は「コピーとして保存」を選ぶ、「保存」を選ぶとオリジナルのファイルを上書きするので注意が必要。

背景を透過させた写真のファイル形式は、透過情報をサポートした TIFF 形式(.tif 又は .tiff)か PNG 形式(.png)を選択すること。

写真の場合は、ファイルサイズが大きくなるが画質の良い TIFF を選択するのが一般的のようだ。

Win11 に標準で搭載される(無料で使える)アプリが、こんなに高性能なのは、やはり日々進化をしている AI のお陰だろう、AI 恐るべし。

(2024 年 4 月記)